

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 23日

事業所名 障害児通所支援事業 ふらわーず

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			* 活動で人数が多く集まり私用する部屋が狭い場合などは場所を分散して活動している	* 夏の台風被害がひどく、2階ベランダが現在、使用できない状況。今後、工事が入る予定であるが、一向に進んでいない。夏までにベランダが使用できないと、子供たちの大好きなプール活動が令和6年度は、出来ないかもしれない。
	2	職員の配置数は適切である	4	1			* 基準は満たしているが急な欠勤があるに対応が難しい。引き続き求人対策に務める
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	2		* バリアフリーの基準に満たしていないと思います * 階段が多い ↓ ●階段やホールが石など、バリアフリー対応ではないが、事業所の作りに合わせて活動を設定している。また、見学などをしてもらい、バリアフリーだから・・・ではなく、行ってみたい事業所を目指して、ある物を使った取り組みをしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			* 毎朝のミーティングにて、前日の振り返りを行っている。全職員が、話が出来る環境を作っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			* 事業所評価以外に、活動(宿泊学習)についても保護者にアンケートを配布し、意見を聞きながら、活動・業務の見直しを行っている。	* 年度末の父母会にて評価の説明。ご意見にあった事に回答し対応
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5				* 事業所評価結果に関しては、父母会にて配布し、説明している。また、父母会后、自社のHPに掲載。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3			* 社労士の個人面談を実地 * 第三者評価は、今後実施できればと考え中。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			* 日頃から研修の案内を教えてください研修期間が多く充実している	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			* お子さんの発達段階などを考え、保護者+本人を交えたモニタリングを実施することで、本人の想いを保護者と共有でき、本人の意識が変化。お子さんの状況や卒業(今後の進路が明確なお子さんに関しては・・・)を見据えた状況においては、本人も同席のモニタリングを行いながら、保護者+本人と作る支援計画も今年度は、実施した。	* 5領域を入れたモニタリング表を作成し、11月のモニタリングから職員と一緒に検討しているところ。

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5				* 5領域を入れたモニタリング表を作成し、11月のモニタリングから職員と一緒に検討しているところ。まだ、独自で作成しているため、お子さんや活動内容によっても変更していく予定。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5				* 全体の活動プログラムは、前月の末までに管理者が作り、活動自体は、職員同士で意見を出し合いながら作り上げている。活動進行も分担しながら行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5				* プログラムが固定化にならないよう主で動く職員も変えている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5				* 子供ひとりひとりの個人目標をたてそれに向けての支援を行っている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5				* 朝のミーティングにて、前日の振り返り+今日の活動、利用者について共通確認しながら日々の支援を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		1		* 次の日に職員間で振り返り共有を行っている * ラインなども活用しながら共有している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5				* ICTを導入しているが、まだ、全職員が使いこなせていない状況なので、事業所研修を入れながら、誰でも気軽に記録等が出来るようにしていきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5				* 日々のミーティングにおいてお子さんの変化などを全職員が共有できるようにしている。何か変化だけでなく、良かった点などを職員同士で話し合える時間を作っている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5					

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			* 基本、児童発達支援管理責任者が参加するが、時には、主で支援している職員も一緒に参加することもある。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1		* 学校への送迎にて、担任との引継ぎを行っているが、支援学級・支援学校の担任は、基本、玄関にて引継ぎを行っているが、通常学級在籍のお子さんに関しては、担任と会うことが無い為、支援会議などで情報共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2			* 医療ケア児の受け入れは、行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			* 児童発達支援から放課後等デイサービスへ移行するお子さんに関しては、しっかりと引継ぎ会議を行っている。また、情報提供書を作成し、次のステップの方にお渡ししている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	1	1	* 今年、移行するお子さんがいるが移行する現在の今の段階から情報提供し共有している	* 利用者の実習先に見学に行ったり、実習反省会に参加しながら、情報共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	1	1	* 石嶺キンボールクラブにキンボール体験をさせていただいている。今後とも、交流を行いながら、部活動への移行や卒業後の地域のクラブなどを居場所として移行していきたい。	* 事業所側は積極的に取り組みたいが相手側は消極的に感じる。対策を考えていきたい * 所外活動の際に公園などで子供たちと積極的に関わっている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	1			* 自立支援協議会の役員として参加している。また、何か部会などの参加依頼があれば、是非とも参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	1	2		* 事業所側は提案するものの消極的な保護者が多いと感じる。引き続き発信していく。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				* 契約時において丁寧に説明している	

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5					
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4		1			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5				* いつでも苦情など困ったことなどあったら、連絡してくださいと伝えている為、何かあったら、保護者から連絡があり、しっかり保護者の声に耳を傾けていけるようにしている。	* 保護者から納得のいかない苦情があった場合、内容・状況によっては、相談員などを含めた会議を行い、お互いに納得できる形で解決している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5					
	35	個人情報に十分注意している	5					* 個人情報同意書を作成。HPに掲載する写真についても保護者+事業所で2部作成し、事業所・保護者で1部ずつ保管。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5					
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			1	4		* 事業所のキャパが足りない為、地域の方を招待することは出来ないが、地域主催のイベントなどに活動で参加させていただき、その中で交流をしている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	*コロナ禍、感染者が出た場合は、迅速に対応できるように手紙を出して、事業所の状況を発信していた。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		*年に2回の避難訓練実施(利用者と一緒に実践的な訓練を心掛けている)	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		*事業所外での虐待防止研修会に毎年、職員が参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	*クッキング活動が多い為、契約時にアレルギーの有無を保護者から聞いてから対応している。卵・牛乳アレルギーのお子さんに関して、おやつを自宅より持ってきていただくなどの対応をしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	*ヒヤリハットノートは、作っているため、事業所内での事故などについては記入。次の日のミーティングにて全職員と共有している。	○ヒヤリハットノートがあること自体知らない職員もいる為、周知徹底を行っていきたい。まだ、ヒヤリハット事例集を作成するまでの段階にいない。